

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	家電量販店（地区統括部長）	・オーバーストアによる淘汰が進み、競合店の閉鎖などにより売上が伸長している状況なので、今後についても良くなる。
	変わらない	商店街（代表者）	・街のイベントや大型店の改装効果により商店街への来訪者がやや増えたが、今ひとつ売上の伸びにつながらず、景気回復とはいえない。客は何かのイベントや催しには反応するが、それ以外は静かにしている状態である。
		商店街（代表者）	・バーゲンの最初の盛り上がりはあるだろうが、その後、販売価格は一気に下がる可能性があるため、総合すると売上金額がそれほど増えるとは思えない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・底堅い動きはあるものの、販売量及び販売数量においても、上昇がなかなか見込めない。
		百貨店（売場主任）	・店内の様子から、今の状況では本当に必要な物以外は買うのを辛抱すると感じられる。
		スーパー（店長）	・来客数は前月をやや上回り、販売点数も若干伸びているが、全体としては、ほぼ横ばいで変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・公共工事の減少がマイナス要因であるが、十勝沖地震の復興工事と降雪の遅れがプラス要因となり、全体としては変化はない。
		衣料品専門店（店長）	・先月に引き続き良くなる要素がなく、ボーナス・年末商戦は消費が低下しそうである。
		家電量販店（経営者）	・十勝沖地震の影響で、更に景気が冷え込んできていると感じる。
		住関連専門店（経営者）	・インターネットでの販売が依然として好調なため、そちらの方はかなり期待が持てそうであるが、全体として良くなる要素が見込めないため変わらない。
		一般レストラン（スタッフ）	・売上の減少に対処して、人員削減・経費の節約など、コスト管理を徹底してきたが限界であり、これ以上のコストの削減は無理である。
		観光型ホテル（経営者）	・入込客数は、衆議院選挙の影響で少し減ったものの、特殊要因を除けば大きな変化はなく推移しているため、今後も同じように推移するのではないかとと思われる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・札幌圏での需要が3分の2を占める定山溪地区が、道内景気の不振から大きく落ち込んでいる。今後は、インバウンドに期待するが、単価の低下は必至で、全体として売上は引き続き前年割れとなる。
旅行代理店（従業員）	・やはり海外旅行の需要が個人・法人とも全く伸び悩み、早急なる回復傾向が望めそうにない。頻りに報道されているテロ情報も客足に影響を与えていると思われ、景気浮上がないまま進行しそうである。		
タクシー運転手	・これから本格的な年末・年始の輸送繁忙期を迎える期待感はあるものの、ここ数か月の乗り控えを見ると、景気の大きな好転は望めない。		
やや悪くなる	一般小売店〔土産〕（店員）	・自衛隊のイラク派遣に伴って、2月の雪まつりがかなり縮小されると聞く。また、近年、冬場の客が落ち込んでいる状況から冬の商戦は厳しいと思われる。	
	スーパー（店長）	・特に良くなる要素は見当たらないが、競合店の新規出店や地元スーパーの実質的な倒産による営業権譲渡が決定しているため、今後、競争がますます激化すると予想される。	
	スーパー（企画担当）	・お歳暮ギフト商戦もスタートしたが、親しい者へのギフトに絞る傾向があり、付き合いでのギフトの減少傾向がみられ、そうした影響からか、出だしの状況は厳しいものがあり、今後の景気動向についても悲観的にならざるを得ない。	
	衣料品専門店（店員）	・2か月先は春物の発売期だが、必要以上に衣類を買う人が少なくなっており、持っている衣類でつないでいく形が多いと思われる。	
	高級レストラン（スタッフ）	・伸びた来客数も一時的なことで、地域的には全国チェーンの競合他社の開店などがあり、競争激化の感がある。	

		観光型ホテル（経営者）	・選挙後の政局不安、円高、不祥事続発などの社会不安が影を落としている。表面には出ないが、十勝沖地震や熊の出没などの報道がボディーブローのように効いていることが、本州からの客との会話で推測される。自衛隊派遣のことも無縁ではなく、これにボーナスが出ないとなると、良くなる要因がなくなる。
		旅行代理店（従業員）	・国内旅行は前年並みに回復する傾向にあるが、SARSの再流行懸念やイラクの自爆テロによる海外旅行不安が広がり、旅行の取消や延期が増加してくる心配があることから、全体として景気動向は低下する。
悪くなる		スーパー（店長）	・今月に入り、来客数はやや回復傾向にあり、前月比で数%の増加となっており、とりわけ食品については、前年比でも上回っている。ただし、単価はやはり前年比を下回っており、売上が前年並みに回復するのは厳しい状況である。
		コンビニ（エリア担当）	・税金が増えそうだということや、医療費など社会負担が増加するなか、先行きに対する不安から消費は減る。
		コンビニ（エリア担当）	・酒の免許が自由化になり、競争が激化する。
		コンビニ（店長）	・来月半ばに、わずか100mほどの距離に競合店がもう一店オープンするので、間違いなく売上は減る。
		旅行代理店（従業員）	・1月以降の国内・海外の団体旅行の発生状況が依然として厳しいことが想定される。
		住宅販売会社（従業員）	・総選挙が終わったが、年金制度・景気動向と将来が不透明なので、ますます大きな金額のローンは組まれないようになっており、非常に厳しい状況である。
企業動向関連	良くなる	金属製品製造業（統括）	・関西、関東など道外の都市圏で、新規の市場開拓が成功しており、受注量が増える。
	やや良くなる	食料品製造業（団体役員）	・水産珍味製品といった食料品の消費動向は、高品質・高価格製品でも購入動向は強まっており、年末需要の反動落ち込みはあるものの、前年と比較するとやや良くなっている状況が想定される。
		通信業（営業担当） その他非製造業〔機械卸売〕（従業員）	・新規問い合わせの数が復調傾向にある。 ・原子力発電施設の見積・積算が出回り、基礎工事システムを中心に明るさが見えてきた。実際の工事は雪解けからだが、一部の業者は受注を見越して、設備投資の検討を始めている。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・水産物の最大の需要期である年末ギフトの時期が終わり、例年、荷動きが悪くなる時期であるが、製品価格が安いことから安定した底固い需要が見込め、全体としては変わらない。
	輸送業（営業担当）	・貨物の相対的な動きが、大きく変化する要因は見当たらないものの、輸出では紙パルプ、輸入では飼料原料の増加が期待される。	
	金融業（企画担当）	・冬のボーナスは低率にとどまる企業が多く、その後の個人消費はさほど期待できない。	
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・災害関連工事の継続的な実施があると思うので、今の状況がしばらく続く。	
	やや悪くなる	建設業（経営者）	・官・民とも新規の受注がほとんど見込めない。手持ち工事は徐々に完了してくるので稼働量も落ち込む。
	悪くなる	広告代理店（従業員）	・民間企業はもちろん、行政関係も、例年付き合ひのあった年賀広告を中心に減少している。
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・地域要因ではあるものの、建設業従事者の冬季失業も例年のことといえ、影響は小さくないものと思われる。また、来年の公共事業予算の削減は道内への影響は大きく、どのようになるのか予断を許さない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人数は増加しているが、特定の業種・職種での増加であって、業種全体が伸びてはいない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人数を押し上げる要素が現在のところ見当たらない。むしろ、陸上自衛隊第5師団が旅団化されることによる人員削減が及ぼす地域経済への影響が懸念される。
職業安定所（職員）		・相変わらず、求人倍率が0.3倍台と低水準で推移している。	
やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・派遣・紹介・業務請負などの間接雇用の求人募集は増えているものの、全体としての求人件数は前年比で減っている。今後、期待できる業種は介護・病院系以外は今のところない。	

	職業安定所（職員）	・新規求人は社会福祉サービス業で増加しているものの、主力の建設業・製造業で減少している。
悪くなる	-	-